

建学の理念

世に役立つ人物の養成

学生一人ひとりに寄り添い、共に考えながら支援することで、何事にもプラス思考で取り組める、前向きな心を持った魅力ある人物を養成しています。

建学の理念について
詳細はコチラ



大学アドミッションポリシー（入学受入れ方針）と
学部教育の3つのポリシーについて ▶▶▶▶
詳細はコチラ



学科が求める学生像と募集人員

経済学部 | 経済学科

募集人員：300名

- 世の中の経済の動きについて理解を深めたい。
- 貧困の克服や格差の是正について学びたい。
- 特色あるものづくりに関心がある。
- 中小企業の課題について学びたい。
- 環境問題について学びたい。
- 安心で安全な食や住まいに関心がある。
- 金融や証券の仕組みに関心がある。
- 不動産資産の有効活用に関心がある。
- 国や地方自治体の財政に関心がある。
- 地域経済について学びたい。

総合経営学部 | 商学科

募集人員：170名

※定員変更届出中

【流通】

- 小売業や卸売業の歴史、現在の状況、将来の姿について学びたい。
- 商品が生産されてから、卸売業や小売業を経て消費者が購入し、廃棄されるまでに関心がある。
- 商品の輸入や輸出に関心がある。
- 生産者から消費者に商品が届くまでに必要とされる情報や情報処理技術について学びたい。
- 商品の仕入れや販売などビジネスに必要な法律について学びたい。
- 商業について教える教員や、小売業や卸売業の経営についてアドバースする仕事につきたい。

【マーケティング】

- ヒット商品が生まれるまでに、どのような工夫がなされたのかに興味がある。
- 消費者の買行動や消費者心理について学びたい。
- 商品の製造原価、仕入れ価格や販売価格などに興味がある。
- 新しい商品の開発や仕入れの仕事につきたい。
- 販売や営業など人と接する仕事につきたい。
- 小売業、外食産業、サービス業など自分の店を持ちたい。

総合経営学部 | 経営学科

募集人員：430名

※定員変更届出中

【企業経営】

- 企業の仕組みや組織・運営に関心がある。
- 企業の海外進出や輸出入など国際的に活動する仕事に関心がある。
- 社会において企業が果たすべき責任について関心がある。
- 産業や企業経営の歴史を学びたい。
- 企業経営に必要な法律を学びたい。
- 自ら事業を起こして、経営者になりたい。

【ビジネス会計およびビジネス情報】

- 簿記・会計に興味・関心がある。
- 企業における売上や利益の管理・分析に関心がある。
- 簿記・会計の知識や技能をさらに伸ばしたい。
- 情報産業やコンピュータに興味・関心がある。
- 情報処理の知識や技術を生かせる仕事につきたい。

公共学部 | 公共学科

募集人員：200名

※定員変更届出中

【公共とスポーツマネジメント】

- スポーツに関わる仕事につきたい。
- 公務員などの仕事につきたい。
- 企業などの仕事を通して地域社会に貢献したい。
- NPO やボランティアなどによる社会貢献活動や地域の活性化に関心がある。

【公共と観光・レジャーマネジメント】

- 公務員などの仕事につきたい。
- 企業などの仕事を通して地域社会に貢献したい。
- 地域の観光に関わる仕事につきたい。
- NPO やボランティアなどによる社会貢献活動や地域の活性化に関心がある。

【公共と福祉・文化マネジメント】

- 企業などの仕事を通して地域社会に貢献したい。
- NPO やボランティアなどによる社会貢献活動や地域の活性化に関心がある。
- 公務員などの仕事につきたい。
- 環境や福祉・文化に関心をもち、その事業化や運営に携わりたい。

選抜方法

一般選抜、学校推薦型選抜及び総合型選抜を中心とした入学選抜に加え、その他の入学選抜を行う。これにより入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的に評価し、多様な人材を受け入れることを目指す。

一般選抜

(1) 一般入学試験

本学で学ぶうえで必要な学力を評価するために、3科目または2科目(国語、英語、日本史、世界史、政治・経済、数学)の学力試験を課し、一部の科目については外部試験(みなし得点)制度を認め可否を判定する。

(2) 大学入学共通テスト利用

本学で学ぶうえで必要な学力を評価するために、大学入学共通テストで受験した科目(3科目)及び、一部の科目については外部試験(みなし得点)制度を認め可否を判定する。なお、本学独自の学力試験は課さない。

(3) 海外留学一般入学試験

本学における海外留学を必修とする教育課程で学ぶうえで必要な能力を評価するため、一般入学試験に面接・口頭試問を組み合わせ実施する。面接・口頭試問においては、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

学校推薦型選抜

(1) 指定校推薦入学試験

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための調査書と、面接・口頭試問において、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

総合型選抜

(1) AO 入学試験、スポーツ活動実績利用入学試験

本学で学びたいという強い意欲及び目的意識や適性等を確認するために、事前審査を実施し、出願を許可する。書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、面接・口頭試問において、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

(2) 資格利用入学試験、全商協会資格利用入学試験

書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、証明書類から資格・検定の取得実績を確認し、面接・口頭試問においては、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

(3) 公募制入学試験

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための基礎テスト(国語と選択科目<英語、日本史、数学>)と調査書(全体の「学習成績の状況」を点数化)及び、取得した資格(資格を点数化)の組み合わせにより可否を判定する。

(4) 海外留学公募制入学試験

本学における海外留学を必修とする教育課程で学ぶうえで必要な能力を評価するため、公募制入学試験に面接・口頭試問を組み合わせ実施する。面接・口頭試問においては、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

その他

(1) 社会人入学試験

社会人を対象に、書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、面接・口頭試問において、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

(2) 外国人留学生入学試験

外国籍を有する者を対象に、書類審査において、本学で学ぶうえで必要な日本語能力を確認し、面接・口頭試問において、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(日本語力、向学心、熱意等)を行い、可否を判定する。

(3) 編入学試験及び転入学試験

書類審査及び面接・口頭試問において、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、可否を判定する。

●出題の意図・傾向と対策

■公募制入学試験

国語	出題の意図	大問一は、おもに文章の読解力を問う問題です。倫理学、哲学、論理学に関する一般的な評論やエッセー（随筆）を題材とし、筆者の主張や書かれている内容を適確に理解できているかどうかを確認することが目的でした。また文中の漢字の読み書き、言葉の意味、指示語が指す内容など語彙や表現に関する問題も出題しました。
	傾向と対策	大問二から大問四は、国語表現力や語彙力、ことばに関する知識を問う問題で、四字熟語や慣用句、故事成語やことわざに関する知識およびそれらの用法、漢字の読み書きに関する知識を問うさまざまな形式の小問を出題しました。著作物や新聞・雑誌の中で、また社会生活おいて使われる言葉の意味や用法を正確に理解できているかどうかを確認することが目的でした。
国語	出題の意図	比較的阅读しやすい評論、エッセー（随筆）、また小説などから出題されます。評論やエッセーでは、「社会」「経済」「倫理」「哲学」「言語」「文化」といった幅広いテーマが取りあげられます。いずれの問題でも文章の趣旨の読み取りはもちろん、文中の漢字や熟語の読み書き、言い回しや慣用句の意味なども問われます。
	傾向と対策	日頃から新聞の社説やコラム、雑誌の評論、エッセーや新書本、小説などに触れ、さまざまなジャンルの文章に慣れておくことが試験の対策として有効でしょう。日常生活のなかで、また文章のなかで出会った分からない言葉や表現をこまめに調べることを心がけ、慣用句やことわざ・故事成語、四字熟語、類義語や対義語、同音異義語など、基本的な国語力を普段から養っておくことが大切です。

英語	出題の意図	I. 空所補充（英文法） 平易な短文を構成する上で不可欠となる、基礎的な英文法事項の定着度を測ります。正確な英文構成能力の土台が備わっているかを確認することを目的とします。
	傾向と対策	II. 会話文選択 対話における文脈を的確に把握し、論理的な流れに合致する適切な応答を選択できるかを問います。日常的なコミュニケーションにおける、自然な英語表現の運用能力を確認します。
英語	出題の意図	III. 空所補充（イディオム・句動詞） 英文読解や表現において頻出するイディオムおよび句動詞の知識を問います。単語単体の意味のみならず、語の組み合わせによる意味の変化を理解し、適切に活用できる能力を測定します。
	傾向と対策	IV. 整序英作文 平易かつ典型的な文型（基本文型）の理解度を問います。語句を正しく配列し、論理的な英文を構築できる基礎的な構文把握能力を確認します。
英語	出題の意図	V. 適訳選択 字面通りの表面的な理解に留まらず、文脈やニュアンスを汲み取り、英文が意図する内容を日本語で的確に捉え直す「内容理解の正確性」を確認します。
	傾向と対策	VI. 長文読解 平易な語彙・構文で構成された論理的かつ具体的な文章を用い、全体の主旨（大意）の把握から、細部における情報の正確な読み取りまで、多角的な読解力を総合的に評価します。
英語	出題の意図	文法、会話文完成、慣用句完成、語句整序、適切な和訳選択、および長文読解の計6分野（合計40問）で構成されています。難易度は英検準2級程度を基準としており、語彙もその範囲を大きく超えるものはほとんどありません。長文読解において難易度の高い語句には注釈を付記しています。そのため、単語の意味だけを切り取って暗記するような学習ではなく、以下の点に重点を置いた対策を推奨します。
	傾向と対策	1. 読解力の養成：日頃から教科書の文章や会話文に数多く触れ、たとえ未知の語句があっても、前後の文脈から内容を推測・把握する練習を積み重ねてください。また、常に主語と述語動詞を意識し、一文ずつの構造を正確に捉えることが大切です。
英語	出題の意図	2. 文法・整序問題への対策：「基本5文型」「形式主語構文」「後置修飾」「無生物主語構文」といった典型的な構文に習熟しておく必要があります。例文を繰り返し音読する、あるいは日本語から英語へ書き換えるなどの練習が非常に効果的です。
	傾向と対策	

日本史	出題の意図	本年度の入試問題は、原始・古代、中世、近世、近代と時代順に配した大問4題、総設問数40題で構成しました。解答方式は、20個の語群から適切な語句を選択する形式を採用しました。
	傾向と対策	出題にあたっては、政治、経済、社会、文化の各分野から広く出題し、バランスの取れた内容とすることを基本方針としました。難易度については教科書に依拠した基礎的な重要事項を中心としています。
日本史	出題の意図	歴史の連続性を体系的に理解しているかを問うため、重要な人名や年号、地名、文化財・作品名を網羅的に組み込みました。
	傾向と対策	受験生の皆さんには、教科書の本文のみならず、史料や地図等の資料にもていねいに目を通し、両者を相互に関連付けて深く理解することを期待します。
日本史	出題の意図	古代・中世・近世・近現代の4つの時代から1つずつ、基本的な問題が出題されます。出題形式は空所補充で、語群の中から最適な語句を選ぶものとなっており、各時代の政治や経済、外交の動き、文化や芸術など幅広い分野を問う構成になっています。また、年号について問う問題もあるので、重要な事件の年号は必ず覚えておきましょう。
	傾向と対策	いずれも、細かい語句の一字一句まで暗記できているのかを問うのではなく、教科書レベルの知識で解答できる基本的・標準的な出題であり、基礎力を問う内容になっています。教科書の内容を理解できるまで繰り返し復習しておきましょう。

数学	出題の意図	基礎的な数学の理解度を確認することを意図した問題となっています。全部で20問の小問形式で出題されています。出題範囲の各分野から偏りなく出題されています。小問(1)～(5)については「数と式」、(6)～(10)については「2次関数」、(11)～(15)については「図形と計量」、(16)～(20)については「場合の数と確率」からの出題が中心となっています。教科書の例題や練習問題レベルの基礎的な内容について問う設問が中心となっており、すべてマークセンス方式で出題されています。設問に選択肢が設けられておらず、計算した結果の数字をマークする問題と設問に選択肢が設けられており、適切な選択肢の番号をマークする問題から構成されています。
	傾向と対策	数学の基本事項を身につけているかどうか、基礎的な計算力があるかどうかをみるための出題内容となっています。数学Ⅰ・数学Aの出題範囲から、数と式、2次関数、図形と計量、場合の数と確率といった分野からの出題が多くなっています。難易度は、教科書の例題・練習問題レベルです。これらを繰り返し解き、しっかり理解しておくことと、普段から計算ミスの無いうようにチェックする習慣をつけておくことが大切です。出題はマークセンス方式となっているので、過去問題にチャレンジし、形式にも慣れておきましょう。
数学	出題の意図	
	傾向と対策	

■一般入学試験

国語	出題の意図	評論、随筆（エッセー）、小説の三分野から幅広く出題し、文章を表面的に捉えるのではなく、筆者の考えや物語の展開に沿って、論理の筋道を正しくたどる力を測ることを目的としました。評論・随筆では、内容を客観的に精度高く読み取る力を重視しました。まず、恒例となっている8個の空欄補充問題を通して文と文のつながりを的確に捉えて適切な接続詞や熟語を選ぶ文脈把握力を確認しました。続いて、読解の基礎となる語彙力、キープフレーズを文脈に応じて使いこなす言語運用能力も評価しました。さらに、文中に散在する情報を整理する力や、与えられた情報から論理的に先を見通す推論力も問い、文章が進むにつれて増えていく情報を、頭の中で順番通りに組み立てて理解できているかを判定することを目指しました。小説では、登場人物の行動や発言、情景描写から、その時の心情を正確に読み取れるかを問いました。人物像や関係性をふまえ、その話全体が伝えようとしているテーマや、作者独自の表現の工夫を読み解く力が身につけているかを確認することを目指しました。
		評論、エッセー（随筆）、そして小説が出題されます。評論やエッセーでは、「社会」「経済」「文化」「科学」、そして「言語」といった幅広いテーマが取り上げられます。いずれも内容を正確に読み取る問題となっています。日頃から評論やエッセーを読み慣れておくことが試験対策となります。教科書に加え、過去に出題された文章程度の評論を読んでおくとういでしょう。小説では、現代小説が多く出題され、登場人物の行動や発言を通して心情を理解することがポイントになります。また、常識的な国語知識にかかわる問題も出題されます。「漢字の読み書き」「慣用語」「ことわざ」、そして「四字熟語」「言葉の意味」を習得し、日頃から広い意味での国語力を養っておきましょう。

英語	出題の意図	I. 長文読解 300～400語程度の英文を読み、内容を正しく理解できるかを問います。文章の大まかな流れをつかむ力と、重要な情報を読み取る力の両方が必要です。 II. 資料読解 図表やポスターなど、日常生活で見かける資料に示された情報をもとに、英語の質問に答えたり、英文を完成させたりする力を問います。 III. 会話表現 会話文の空欄に入る最も適切な表現を選ぶ問題です。会話の流れや話し手の意図を理解し、文脈に合った自然な表現を選ぶ力が求められます。 IV. 英文作成（語句整序） 語句を並べ替えて、日本語に合う英文を作る問題です。基本的な文の形や語順を正しく理解しているかを問います。 V. 文法・語法 文の意味に合う語句を選ぶ問題です。文法や慣用表現の基礎知識が必要です。 VI. 語彙 英語の意味説明をもとに適切な語を選ぶ問題です。基本的な語彙力を問います。
		これらの問題では、英語の基礎的な力を総合的に確認します。日頃から英文を読む習慣をつけ、語句や表現、文の仕組みを意識して学習することが大切です。
	傾向と対策	長文、短めの英文読解、図表・イラスト、会話、語句整序、文法・慣用句、語彙など総合的な英語力を問う問題が出題されます。いずれも基礎的な英語能力を問う問題です。日頃から英語の論説文や会話文などにふれ、語句や慣用表現に慣れ親しむと同時に構文の学習にも努めましょう。ただ英文を丸暗記するのではなく、主語や動詞、目的語や補語を意識しながら丁寧に文全体の意味を理解していく習慣をつけてください。長文読解問題の対策としては、時間を計りながら300～400語程度の英文を読み、その概要をつかむ練習をくり返し行うことをお勧めします。また、普段から様々な図表にふれ、それが何を表しているのかを理解し、その内容に関する基本的な英語の質問に答えられるように練習しておくことが効果的でしょう。

日本史	出題の意図	出題される時代は原始・古代／中世／近世／近現代の4つの時代区分すべてで、基本的な知識を確認します。それぞれの時代の政治や経済、外交の動き、文化や芸術など幅広い分野を問います。それぞれの分野が他の分野と関わっており、相互連関のなかで捉えることで、時々の時代は理解できると考えているからです。また例年史料問題も出題しており、エビデンスに基づく歴史理解の力も確認しています。
-----	-------	--

日本史	傾向と対策	各時代まんべんなく出題されており、原始・古代／中世／近世／近現代の4つの時代区分から1つずつ、基本的な問題が出題されています。出題形式はいずれも空所補充が中心で、それぞれの時代の政治や経済、外交の動き、文化や芸術など幅広い分野を問う構成になっています。また、年号や人名等について問う問題も出題されているので、重要なものについては必ずチェックしておきましょう。なお、例年出題されている史料問題についても、特に時代やテーマの偏りはみられません。いずれも、教科書や副読本レベルの知識で回答できる出題であり、基礎力を問う内容になっています。何よりも、歴史の流れをしっかりと理解できるまで繰り返し復習しておきましょう。
-----	-------	--

世界史	出題の意図	高等学校で学んだ世界史について総合的に深く理解、習得できているかどうかを問う試験問題としています。教科書・用語集に準拠して出題している。古代から現代に至る時代、地域全般の史実について、あらゆる角度から出題しています。世界史全般にわたって、史実を深く理解できているかどうかを問う試験問題としています。政治、経済、社会、文化、宗教などについての内容や状況、特徴について、あらゆる視点から理解できているかどうかを問う試験問題としています。世界史全般にわたって、幅広い教養、知識が身についているかどうかを問う試験問題としています。大学での世界史の授業を理解できる論理的な考察力、思考力が備わっているかどうかを問う試験問題としています。
-----	-------	---

	傾向と対策	大問題が3問と、適切な人物や年号、用語を問う小問題が1問です。どの問題も、教科書の基本事項を問う基礎的な問題です。欧米史にかたよらず、イスラーム圏の展開やアジア・アフリカ・中南米・太平洋におけるヨーロッパ植民地の拡張の歴史など、世界の各地域の相互関係や歴史の流れへの基本的な理解度が問われます。時代も、近現代にかたよらず、原始・古代から現代までが広く設問の対象とされます。テーマは政治史から文化史まで幅広く取り上げられていますので、教科書の全体をしっかりと読み込んで基本事項を十分に学習しておきましょう。何より、世界の国々の様々な文化や伝統の多様な展開の面白さに目を向けて、歴史の謎やふしぎさに興味を膨らませて学習してください。
--	-------	--

政治・経済	出題の意図	政治・経済の基本的問題に対する判断力や、政治や経済の諸問題を考える力の基礎となる知識を習得できているかどうかを見ています。教科書からの出題を基本としています。ただし、資料集に掲載されている事柄や、時事的な問題についても取り扱うことがあり、教科書で学ぶ知識と関連させて学ぶことができているかも見えています。
		政治・経済の基本的問題に対する判断力や、政治や経済の諸問題を考える力の基礎となる知識を修得できているかどうかを見ようとしています。傾向としては、国内の政治や経済、国際政治、国際経済を中心に幅広い内容から、バランスをとって出題されます。また時事的問題の出題も考えられます。対策としては、教科書を熟読し、問題集を用いて、基本的事項を確実に学習しておきましょう。また、資料集などを活用し、基本的な資料についてはできる限り目を通しておくようにしましょう。

数学	出題の意図	計算力が身に付いているか、高校で学んだ基本事項を理解しているか、さらに、基本知識を応用する力や数学的に考える力が備わっているかをみることを意図して出題しました。 試験問題は4つの大問（Ⅰ～Ⅳ）としました。大問Ⅰは、「数と式」と「データの分析」を中心に問題を出題し、基本的に独立した小問集合としました。大問Ⅱは「2次関数」、大問Ⅲは「場合の数と確率」、大問Ⅳは「図形と計量」から出題しました。これらも小問に分かれています。前の設問で求めた結果を後の設問で用いる問題も出題しました。出題範囲の各分野からバランスよく出題し、いずれの問題も教科書の例題や練習問題にしっかり取り組んでいれば十分に対応できる難易度としました。 解答はすべてマークセンス方式で、計算結果の数値や記号をマークする問題と、問題で与えられた選択肢の中から適切なものを選んでマークする問題を出題しました。
----	-------	---

	傾向と対策	数学の基本事項を身につけているかどうか、基礎的な計算力があるかどうかをみるための出題内容となっています。大問4問（Ⅰ～Ⅳ）で、大問Ⅰは「数と式」と「データの分析」、大問Ⅱは「2次関数」、大問Ⅲは「場合の数と確率」、大問Ⅳは「図形と計量」を中心とした問題が出題されています。難易度は、教科書の例題・練習問題レベルなので、まずこれらを繰り返し解き、基本を身につけましょう。また大問によっては、前の設問で求めたものを後の設問で用いることもあるので、こうした形式にも慣れておきましょう。計算ミスの無いように普段から練習することも大切です。出題はマークセンス方式となっているので、過去問題にチャレンジし、形式にも慣れておきましょう。
--	-------	---

2026 年度入学試験 選抜方法について

一般選抜

海外留学一般入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学における海外留学を必修とする教育課程で学ぶうえで必要な能力を評価するため、一般入学試験に面接・口頭試問を組み合わせ実施する。面接・口頭試問においては、目的意識や適性等の確認及び多面的評価（表現力、論理性、理解力、積極性等）を行い、可否を判定する。

◆学力試験 出題の意図

国語	※一般入学試験「国語」と同様である。
英語	※一般入学試験「英語」と同様である。

学校推薦型選抜

協定校推薦入学試験

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための調査書と、面接・口頭試問において多面的評価（表現力、論理性、理解力、積極性等）を行い、可否を判定する。

系列校推薦入学試験

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための調査書と、面接・口頭試問において多面的評価（表現力、論理性、理解力、積極性等）を行い、可否を判定する。

総合型選抜

海外留学公募制入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学における海外留学を必修とする教育課程で学ぶうえで必要な能力を評価するため、公募制入学試験に面接・口頭試問を組み合わせ実施する。面接・口頭試問においては、目的意識や適性等の確認及び多面的評価（表現力、論理性、理解力、積極性等）を行い、可否を判定する。

◆学力試験 出題の意図

国語	※公募制入学試験「国語」と同様である。
英語	※公募制入学試験「英語」と同様である。